

図 13. 研修歯科医のキャリア展望

14) あなたが将来、歯科診療所を開業すると想定してください。開業にあたって不安に感じることを次の中からお答えください。

(複数選択可)

開業をするにあたって不安に感じることは「経営管理が困難だと思う」が 639 人 (62.1%)、「開業資金の調達が困難だと思う」が 465 人 (45.2%)、「従業員の管理が煩雑だと思う」が 416 人 (40.4%)であった(図 14)。

15) 将来的に歯科診療所を開業する意志はありますか。次の中から一つお答えください。(継承開業する場合も含みます)

「開業したい」という回答が 411 人 (40.3%)、「やや開業したい」という回答が 266 人 (26.1%)、「あまり開業したくない」という回答が 195 人 (19.1%)、「開業したくない」という回答が 148 人 (14.5%)であった(図 15)。

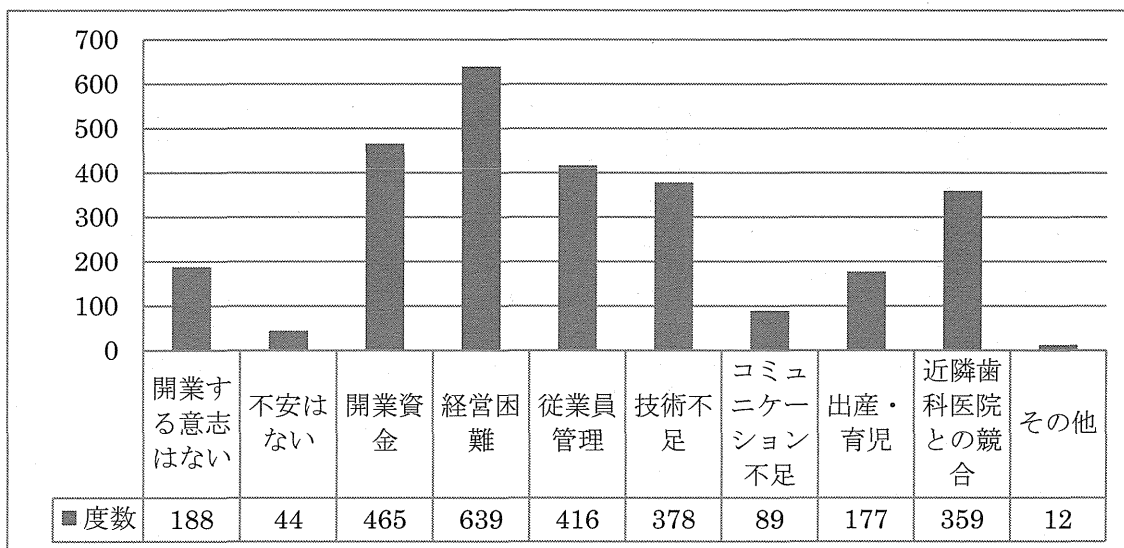


図 14. 開業にあたっての不安

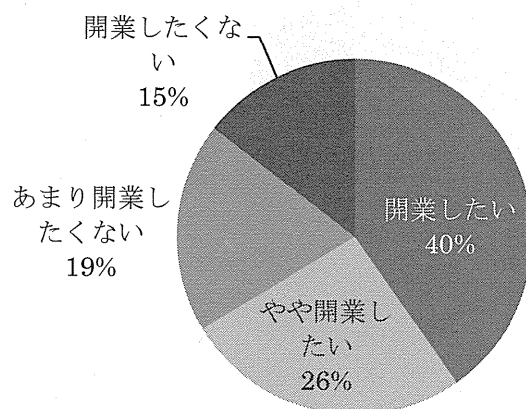


図 15. 開業する意志

(Q15で「1. 開業したい」「2. やや開業したい」と回答した方のみお答えください。)

16) 最も大きな理由を次の中から一つお答えください。

開業する理由として「両親・親戚が開業しているから」と「自分の目指す医療の提供をしたいから」の回答がともに269人(26.1%)で最多であった(図16)。

17) 大学でキャリア展望(仕事における将来設計)に関する教育を受けましたか。「1. 受けた」と回答した方は内容をお書きください。

キャリア展望に関する講義を「受けた」と回答した者は136人(13.7%)であった(図17)。

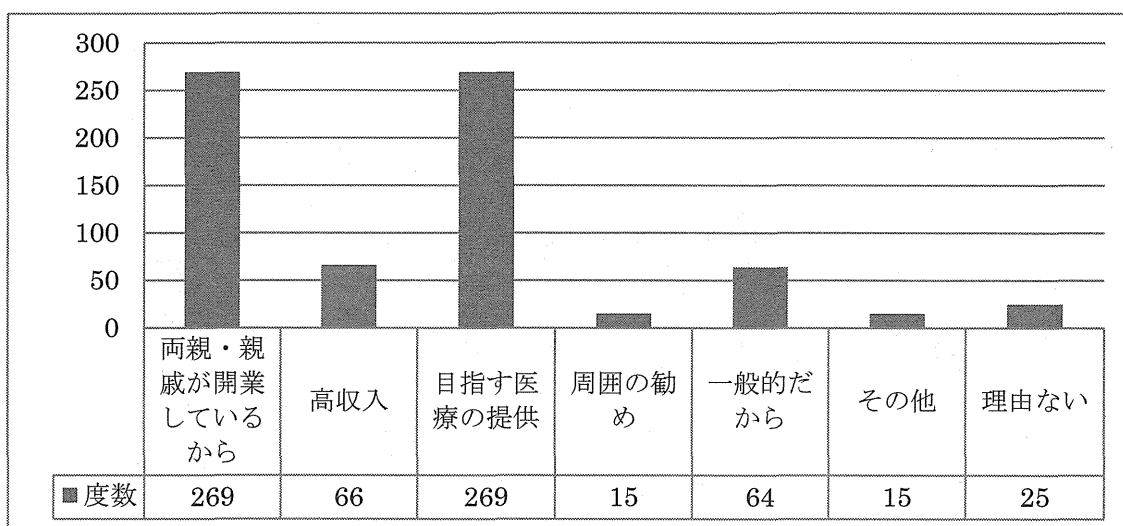


図 16. 開業を希望する理由

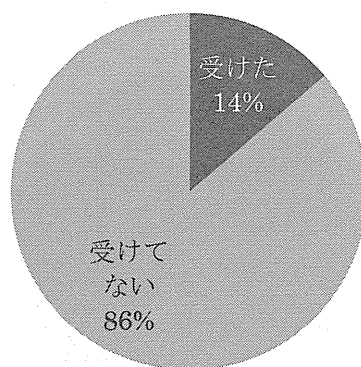


図 17. キャリア展望に関する教育の有無

受けた教育の内容

正しい治療を提供する心得
 大学卒業生の先生の進路選択のアドバイス等の講演
 OB・OGの開業歯科医院への見学
 大学院説明会
 一般開業医や病院勤務医による特別講義
 教養課程中の講義
 開業している先輩の歯科医院の見学、先輩の歯科医師の方の講演
 大学OBの講話

各科の特徴を学んだ
 全国歯科医院の経営状態について
 矯正2ヵ月研修
 キャリア展望について作成した
 50才の時にピークになるように勉強を続けていく
 海外留学
 研究者かつ臨床医としての生き方
 歯科医師としての将来設計
 ライフプランニング、開業方法について
 歯科医師会の説明

開業のやり方

開業のすすめ、チーム医療、行政などの特別講義があった

開業医への道標

開業セミナー

どのような道があるかひと通り説明を受けた

全人教育演習

開業、勤務医それぞれの先生からの現状とその方向に進んだ経緯について講演

基礎研究実習

クレームの対応等

研究職、臨床医など様々な分野の先輩が講演して下さった。

大学院・後期臨床研修からの大学教員のなり方

人生設計

抽象的過ぎてあまり参考にならない内容
海外留学や海外での開業、様々な研究機関の研究者の特別講義があった。

学年毎の他大学講師による講演会

(Q17で「1. 受けた」を回答した方のみお答えください。)

18) その教育によって、あなたのキャリア展望(仕事における将来設計)に影響はありましたか。次の中から一つお答えください。また、そう回答した理由をお答えください。(自由記載)

キャリア展望に関する講義が影響あったと回答したものは48人(20.0%)であった(図18)。

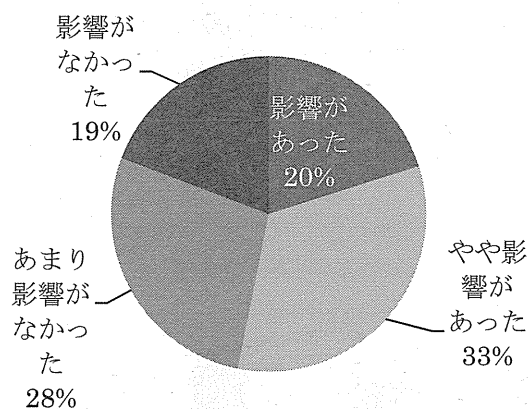


図18. 大学教育のキャリア展望への影響

影響があった理由

行政等歯科医師の仕事の幅が思っていたより広いことを知ることができた。

歯科医院の経営も興味深く思えるようになった。

イメージがしやすくなった。

勉強するためにどうすべきかを知った(大学院に進学したいと思った)。

様々な業界の人の話を聞くことができたため。

多くの先輩の話をきけた。

診療所をどのようにするべきか、いろいろと考えさせられたから。

どのような仕事に興味があるのか少し分かった。

日本の歯科業界に不安を抱いた色々な道が

あると感じた。
 矯正を学びたくなった
 自分のやりたかったことが更に明確になることへの手助けになった。
 研修医として働き始めてから、また、考え方が色々と変化したため。
 具体的な進路の想像が出来た。
 研究職のおもしろさを実感できた
 進路を決めるための知識として役立つ留学など。
 さわりだけでも勉強になった
 資金管理など具体的なセミナーだったから。
 知識が0の状態から、授業をきくことで、より具体的なイメージを持つことができた。
 女性でありながら歯科医師として働いていくことについて色々と考えさせられることがあった。
 講演の内容がおもしろく興味深かったため。
 口腔外科に興味をもった。
 知っている範囲内だった。

研究職を選択肢として考えるようになったので。
 やっぱり大学院に行った方が後で後悔しないのかなと思った。
 前から矯正に興味があったが、実際に自分でやってみてさらに魅力が増した。
 大学院への進学を経へて開業医になること甘いままでは、つぶれてしまう。歯科業会の厳しさ。
 開業に際して、自分ができなければならぬこと、必要になるものなど。
 開業以外にも様々なチャレンジができると分かった。

19) 大学の教育以外でキャリア展望(仕事における将来設計)に影響を与えたものがありますか。次の中からお答えください。(複数選択可)

歯科関係のセミナー・講演と回答した者が396人(38.5%)で最多であった(図19)。

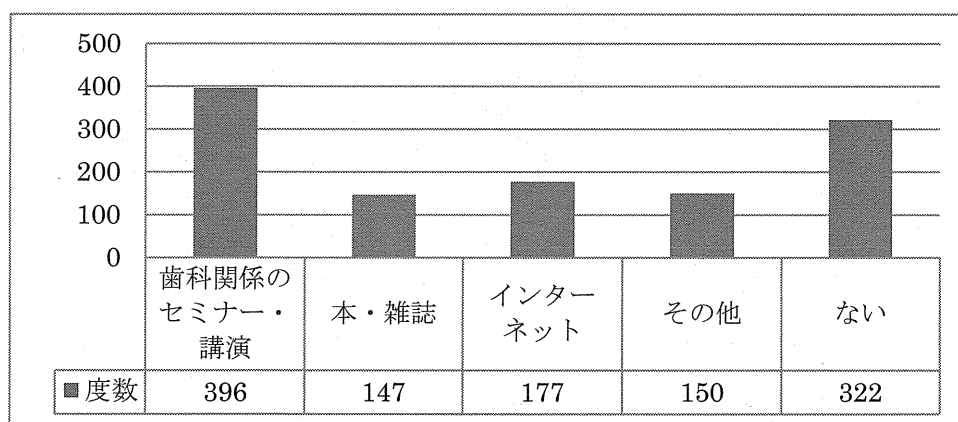


図19. 大学の教育以外でキャリア展望に影響を与えたもの

20) あなたのキャリア展望(仕事における将来設計)に最も影響を与えた人物は誰ですか。次の中から一つお答えください。

キャリア展望に影響を与えた人物について

への回答は「両親・親戚」が299人(29.1%)、「職場の上司」が243人(23.6%)、「大学の教員」が236人(22.9%)であった(図20)。

21) 認定医・専門医・指導医の資格を取得する意志はありますか。

認定医等を取得したいという回答は 572 人 (56.5%) で半数以上が資格を取得する意思を有していた (図 21)。

22) 結婚・出産・育児・介護等によって離職した場合、歯科医として復職しますか。

結婚・出産・育児・介護等での離職後に復帰を望む人は 666 人 (69.3%) であった (図 22)。

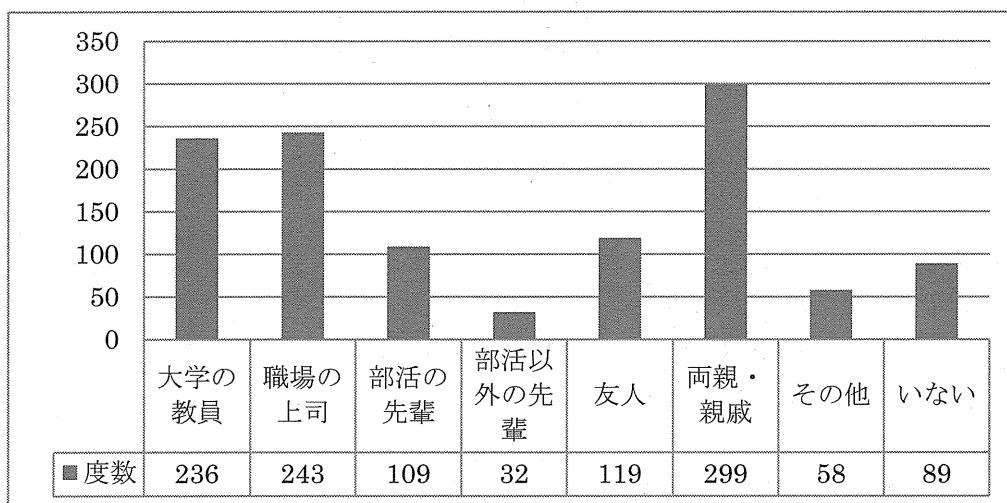


図 20. キャリア展望に影響を与えた人物

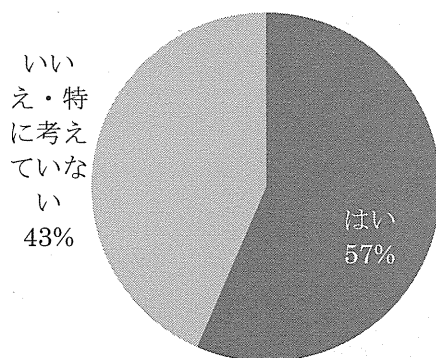


図 21. 専門医等の資格を取得する意志

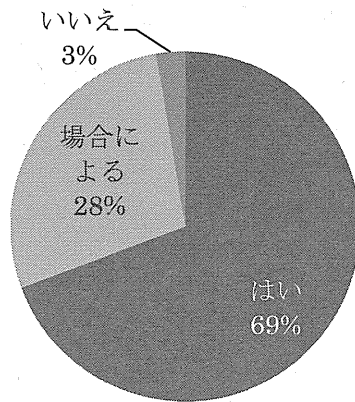


図 22. 退職した場合の復職する意志

23) 目標年収をお答えください。

目標年収の中央値は 1000 万円であった (図 23、表 1)。また、1000 万円と回答した者は 281 人 (32.6%) であった。

数	有効	862
	欠損値	167
平均値		2464.70
中央値		1000.00
最頻値		1000
標準偏差		11686.615
最小値		60
最大値		300000

表 1. 将来の目標年収

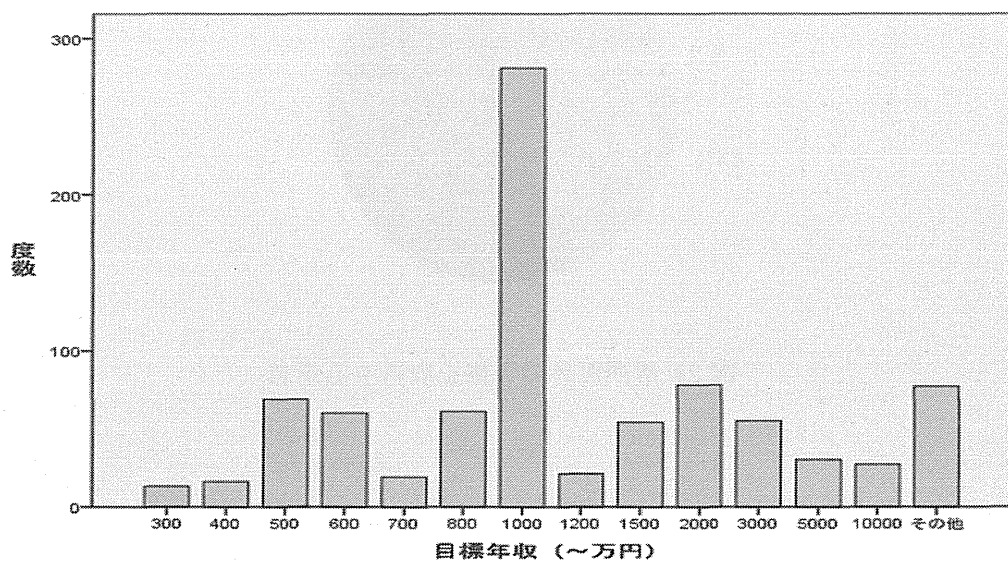


図 23. 将来の目標年収

24) 将来働きたい場所はどこですか。次の中から一つお答えください。

将来働きたい場所は東京都が最多の71人(10.5%)であった(図24)。

(Q24の回答理由についてお答えください。)

25) 将来働きたい場所について、回答した最も大きな理由を次の中から一つお答えください。

将来働きたい場所を決める理由は、「実家がある」が428人(41.6%)、「住環境が良い」が193人(18.8%)、「特に理由はない」が147人(14.3%)であった(図25)。

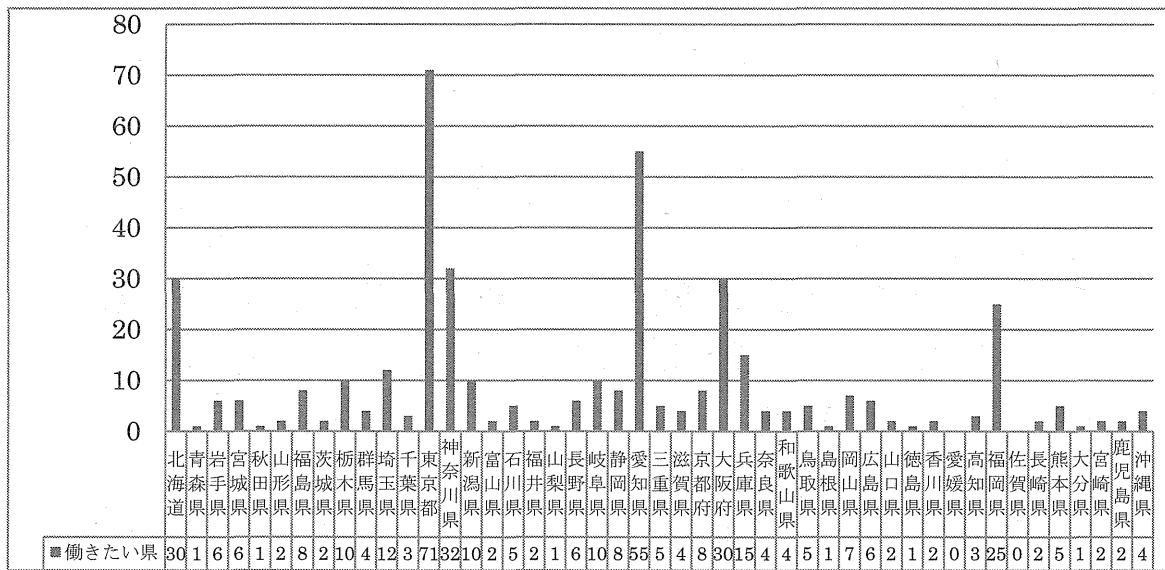


図24. 将来働きたい場所

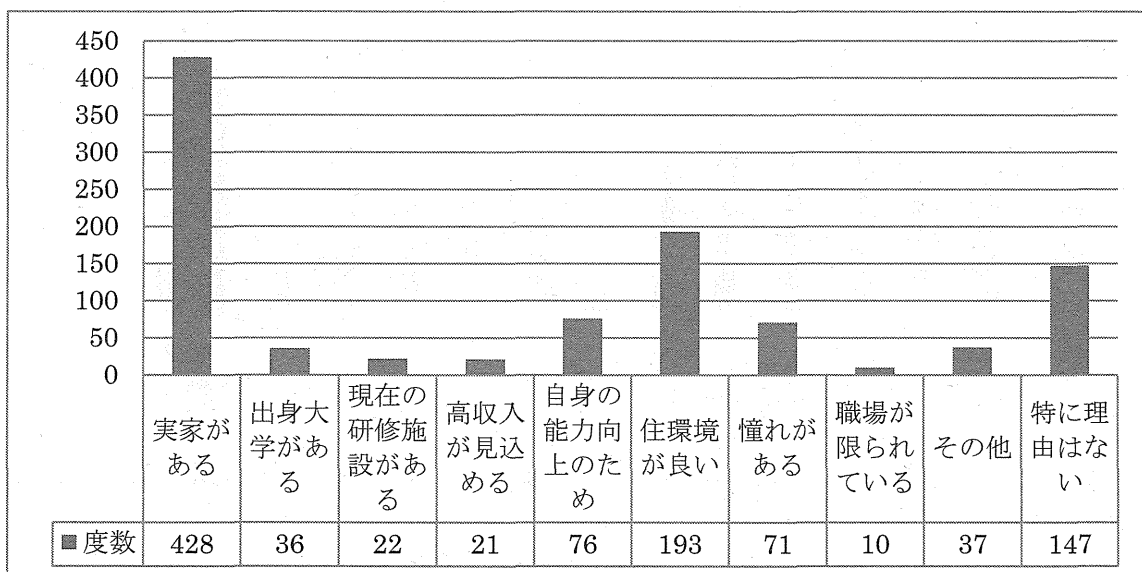


図25. 将来働きたい場所を選ぶ理由

4. あなたの歯科に関する考えについてお答えください。

26) 今後あなたが重点をおいて取り組みたい歯科医療の分野を選んでください。(複数選択可)

今後重点をおいて取り組みたい分野は、予防歯科が475人(46.2%)、歯周病が459人(44.6%)、審美歯科が375人(36.4%)であった(図26)。

27) 今後需要が増加すると考えられる歯科医療の分野を選んでください。(複数選択可)

今後需要が増加すると考えられる分野は、高齢者歯科が515人(50.0%)、在宅歯科が496人(48.2%)、予防歯科が442人(43.0%)であった(図27)。

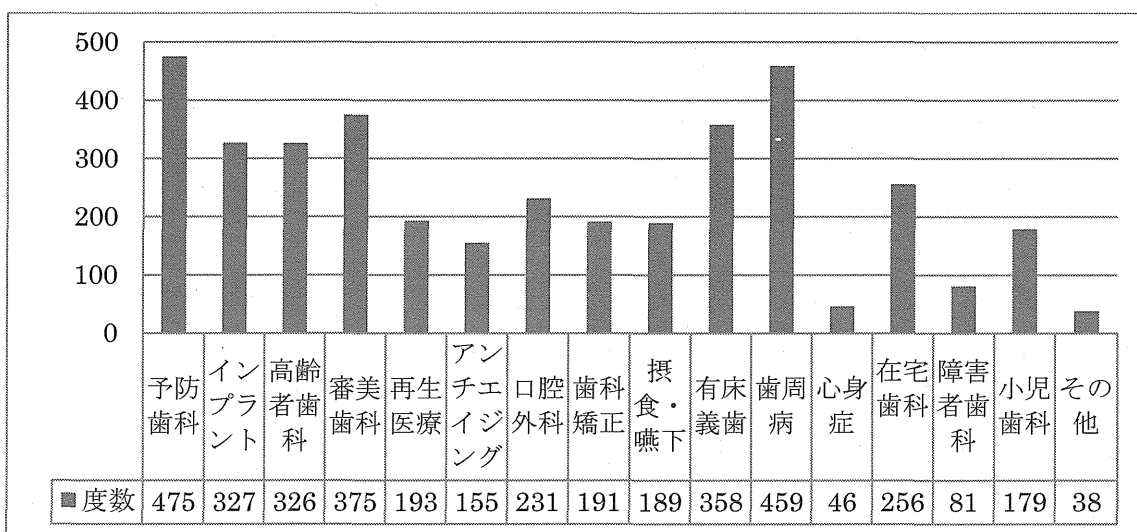


図26. 今後重点を置いて取り組みたい歯科の分野

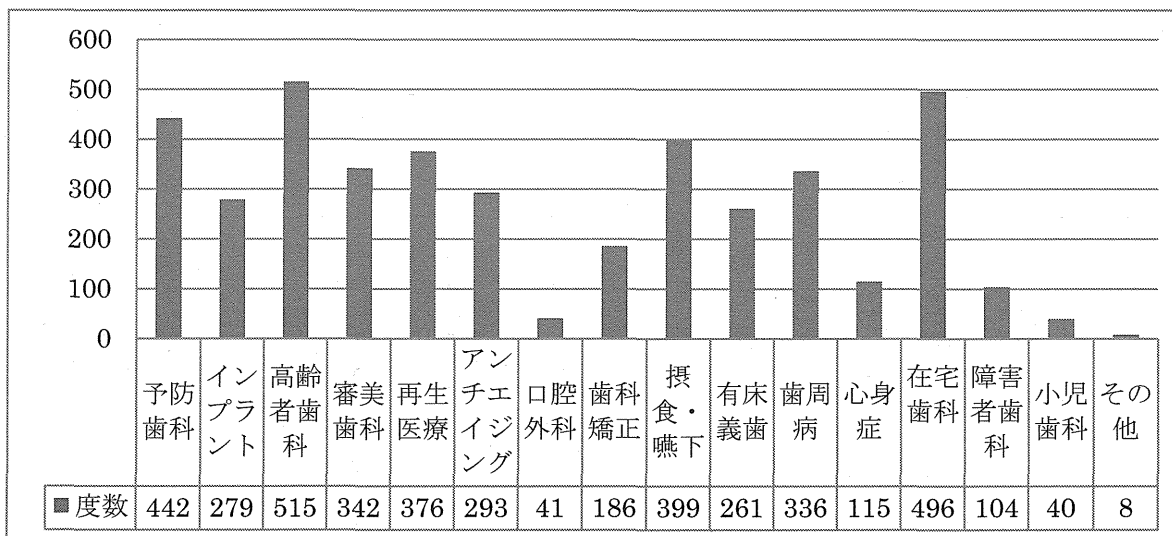


図27. 需要が増加すると考えられる歯科の分野

28) 現在、歯科医師数は過剰だと思いますか。

歯科医師を過剰だと回答したものは438

人(42.6%)、過剰でないと回答したものは134人(13.0%)であった(図28)。

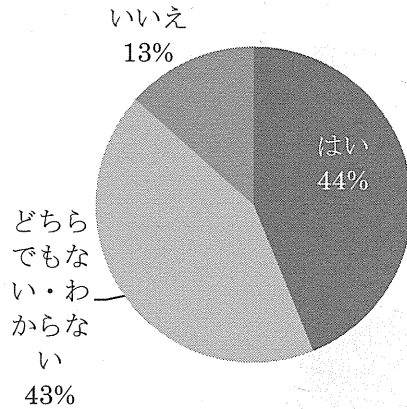


図28. 歯科医師数は過剰か

5. あなたの歯科知識・経験についてお答えください。

29) 歯科訪問診療の際、摂食嚥下機能の判定で、最も簡単に行える方法はどれだと思いますか。次の中から一つお答えください。

摂食嚥下についての問で正しい選択肢を選んだ者は881人(85.6%)、誤答で最も多かったものは簡易嚥下誘発試験で60人(5.8%)であった(図29)。

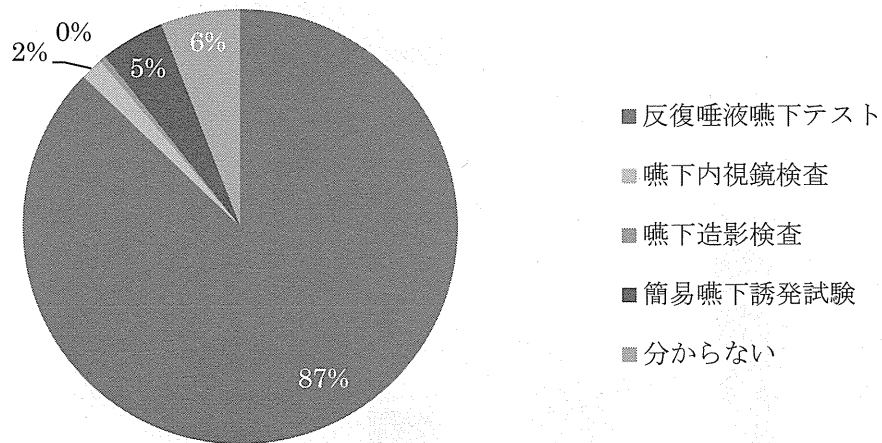
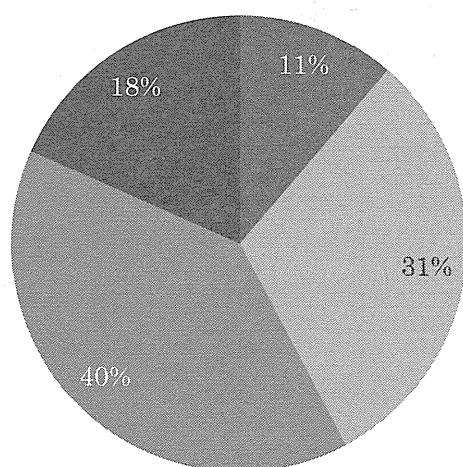


図29. 摂食嚥下機能判定に対する知識

30) 在宅療養型支援歯科診療所に対する知識について、次の中から一つお答えください。

在宅療養型支援歯科診療所については「名称や制度について知っており、実際の診療所も知っている」が113人(11.3%)であった(図30)。



31) これまでに歯科訪問診療(介護施設や在宅などへの訪問診療)についてどのような教育を受けましたか。(複数選択可)

歯科訪問診療について歯学部教育の講義(座学)で受講したのが584人(56.8%)、臨床研修で訪問したのが318人(30.9%)であった(図31)。

- 名称や制度について知っており、実際の診療所も知っている
- 名称や制度は知っているが、実際の診療所は知らない
- 名称は聞いたことがあるが、どのような診療所かは知らない
- 名称も制度もよく知らない

図30. 在宅療養支援歯科診療所に対する知識

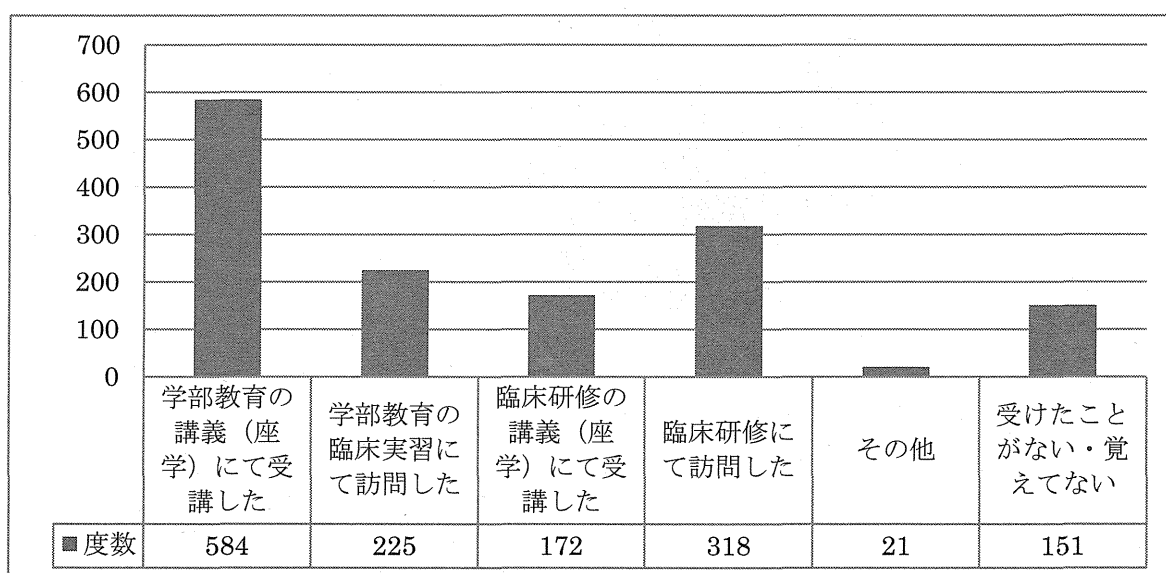


図31. 訪問歯科診療の教育を受けた経験

32) 疫学研究により最も効果が証明されている齲蝕予防法はどれですか。次の中から一つお答えください。

上記の設問に対して、正しい選択肢を選んだ者は687人(67.6%)で、誤答で最も多かったものは毎食後の歯磨きで252人(24.8%)であった(図32)。

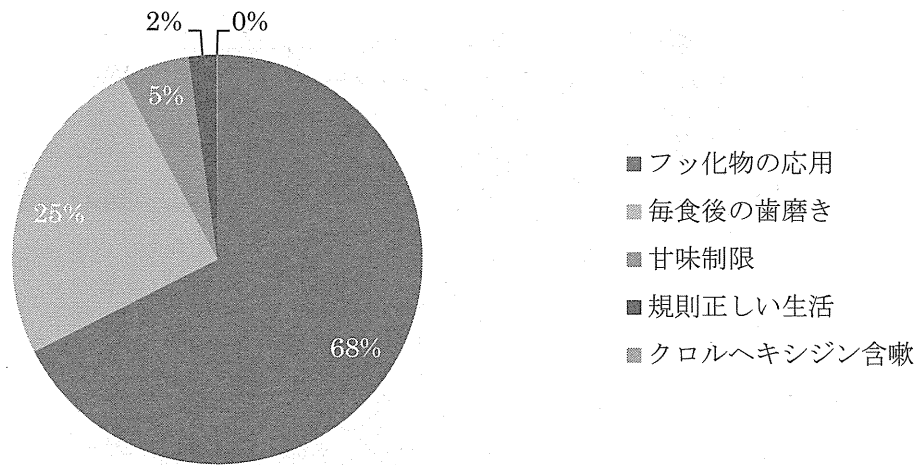


図32. 齲蝕予防法に対する知識

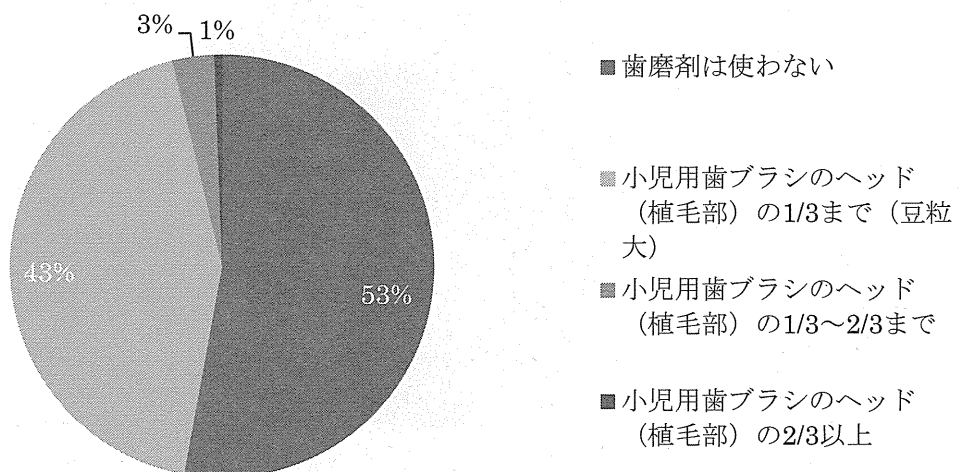


図33. 二歳男児に推奨する歯磨剤の量

33) 二歳の男児の患者さんに対して、あなたが推奨する歯磨剤の量はどれになりますか。一つお答えください。

二歳男児への歯磨剤推奨量の回答として「歯磨剤を使用しない」が526人(52.9%)、「1/3まで(豆粒大)」が431人(43.3%)、「1/3~2/3まで」が32人(3.2%)、「2/3以上」としたのが6人(0.6%)であった(図33)。

(Q33の回答理由についてお答えください。)

34) 二歳の男児の患者さんに対して推奨する量を回答した理由について次の中からお答えください。(複数選択可)

最も多かった回答は「飲み込みのリスクが高い」で391人(38.0%)であった(図34)。

35) フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についてどのように考えますか。一つお答えください。

水道水フロリデーションについて賛成が534人(51.9%)、反対が115人(11.6%)、分からないが344人(34.6%)であった(図35)。

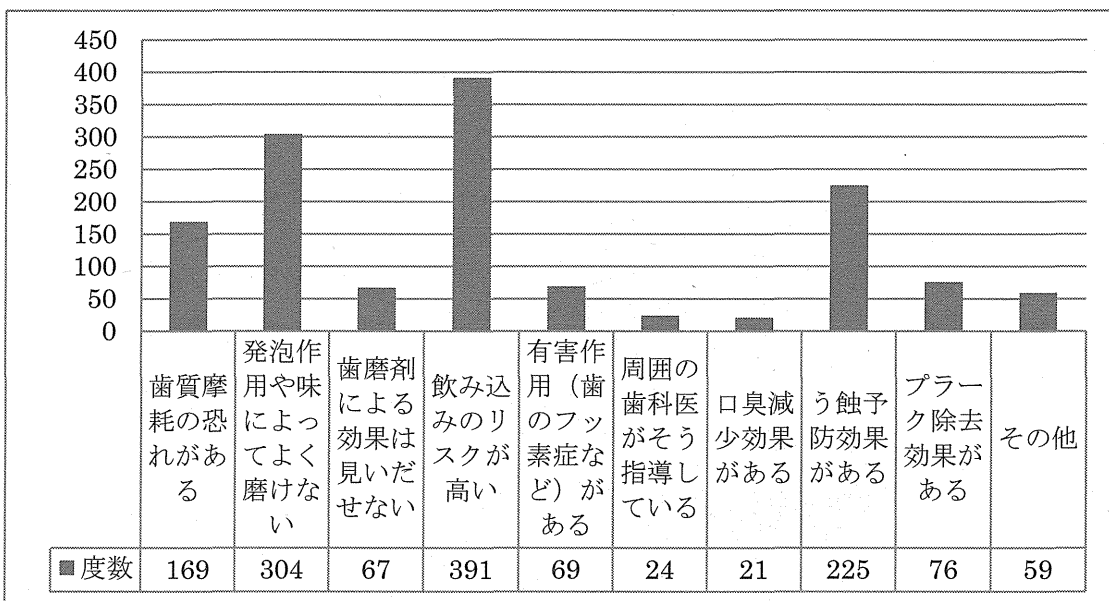


図 34. 歯磨剤の量を推奨する理由

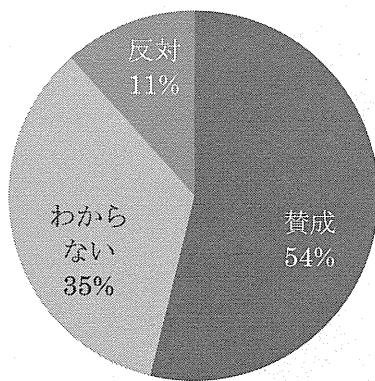


図 35. 水道水フロリデーションに対する意見

D. 考察

1. 本調査の特徴

本調査は、全国の研修歯科医に対し、独自に作成した質問紙による調査を行ったものである。一部の施設で臨床研修に関する調査が行われた報告はこれまでにあるが、本調査は、全国の研修歯科医に調査を行ってデータを得た点で、新規性のある研究となった。主な質問項目として、キャリア展望や歯科医療に対する意識や知識・経験を問うものが含まれている。また質問項目に、歯学部長や歯科医師会長などに対して行ったものと同様の質問項目を含めることで、教育を施す側と受ける側の比較ができる内容となっている。

2. 分析の結果

1) キャリア展望について

回答者の半数近くの親が開業しており、開業を志望する理由やキャリア展望に影響を与えた人物の回答をみても、親戚・両親の影響が最多となっていた。このことから、研修医の親戚に開業医がいる場合はキャリア展望に大きな影響を与えることが示唆された。また、全体の回答の流れをみていくと、研修直後は勤務医または大学院にて経験を積み、10年後程度には開業をするというキャリア展望を描く傾向がみられた。全体の4分の3程度の研修医は開業することに対して積極的であった。開業の際に不安に感じる内容は、自身の経験不足よりも歯科診療所の経営的な観点にたった項目で回答率が高かった。キャリア展望に関する教育を大学で受けた者は約14%、キャリア展望を描けているという回答が約15%に留まるなど、キャリア教育の不足を示唆する結果となった。

2) 訪問歯科診療に関する意識について

歯科医療の分野に関する質問では、今後取り組みたい分野として予防歯科・歯周病などが最多の回答となっていた一方で、需要が増加すると考えられる分野は高齢者・在宅歯科が最多の回答となっていた。また、訪問歯科診療について、実際の制度の運用についての知識は少なく、訪問歯科診療の経験があるものは約30%であった。このことから、実地的な知識・経験の不足により、需要の認知はあるものの今後取り組みたい分野としての回答が低くなった可能性が考えられる。

E. 結論

本調査により、殆どの研修歯科医が正規の課程としてキャリア教育を受けていないことが明らかとなった。また、開業医を志す者が半数近くいる一方で、実地的な知識や体験を提供する場所が限られている可能性も示唆された。これまでの歯科医学の教育から一歩踏み出して、歯科医師としてのあり方も含めた歯科教育の再考が必要であると考えられる。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録

なし

H. 引用文献

- 1) 三浦宏子、薄井由枝、玉置 洋：厚生労働省科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)歯科医療関連職種と歯科医療機関の業務のあり方及び需給予測に関する研究 平成 23 年度 総括・分担研究報告書(研究代表者：三浦宏子)；7-19、2012
- 2) 田口則宏、小川哲次、田中良治、小原勝、笹原妃佐子：キャリアデザインからみた歯科医師臨床研修のアウトカム評価. 日本歯科医学教育学会雑誌、24(2)；182-189、2008
- 3) 恒石美登里、菊谷 武、石井拓男：在宅歯科医療の研修に関する検討：全国の大学歯学部・歯科大学、都道府県歯科医師会、全国の歯科医師臨床研修施設、都道府県歯科衛生士会へのアンケート調査の結果. 老年歯科医学会雑誌、22(4)；398-406、2008
- 4) 笠井史朗、竹原直道、野田邦治、寺下正道、木尾哲朗、西原達次：歯学部1年次生および臨床研修歯科医の歯科医療に関する意識調査. 日本歯科医療管理学会雑誌、42(4)；260-267、2008
- 5) 厚生労働省：歯科医師臨床研修プログラム検索サイト(D-REIS)
<https://d-reis.mhlw.go.jp/common/ad0.php>
- 6) 歯科医師臨床研修マッチング協議会
<http://www.drmp.jp/index.shtml>

(資料)

研修医のキャリア展望に関する調査票

この調査は、全国の研修歯科医を対象として、厚生労働科学研究「歯科疾患の疾病構造及び歯科医療需給等の変化に応じた新たな歯科医療の構築に関する研究」によるものです。現在の臨床研修医のキャリア展望やそれに影響を与える要因等について調査をし、今後の歯科医師の受給について参考となる資料となります。この調査は、東北大学大学院歯学研究科の倫理専門委員会の承認を受けて(承認番号 24-16)実施しています。

【プライバシーの保護について】

個人情報保護法を遵守し、得られた結果は統計的に処理して、貴施設や個人が特定されるデータとして公表されることはありません。調査内容は皆様の個人情報を含んでおりますので、厳重に管理し、みだりに用いることはありません。研究成果を開示する際も、貴施設や個人を特定するような情報を公表することはありません。

【調査同意の可否】

- ◇この調査への協力を拒否されたり、同意を取り消されても、貴施設や研修医個人に何らかの不利益が生じることはありません。また、回答に協力いただくことによる報酬等はありません。
- ◇本アンケート調査の趣旨をご理解頂けましたら、以下をお読み頂き、ご回答賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

回答にあたっての注意

- ・この調査票は研修歯科医本人がお答えください。
- ・選択肢の数字に○を、または()内に回答を記入してください。
- ・調査票の回収期限は平成 24 年○月○日と致します。
- ・回答を記入し終えた質問票は、研修施設の担当者にお渡しください。

お問い合わせ先

厚生労働省 地域医療基盤開発推進研究事業

「歯科疾患の疾病構造及び歯科医療需給等の変化に応じた新たな歯科医療の構築に関する研究」班

研究分担者 東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町4番1号

「研修歯科医のキャリア展望に関する調査」係

E-mail:kokusai@dent.tohoku.ac.jp FAX:022-717-7644

担当 相田、小坂

あなたの情報についてお答えください。

Q1 性別	1. 男性	2. 女性
Q2 年齢	()歳	
Q3 婚姻状態	1. 未婚	2. 既婚
Q4 出身地 (都道府県名をお答えください)	(都道 府県)	
Q5 出身大学	()大学	
	1. 国公立	2. 私立
Q6 あなたの親は歯科診療所を開業していますか。	1. はい	2. いいえ

現在あなたが受けている臨床研修プログラムについてお答えください。

Q7 臨床研修プログラムの正式名称をお答えください。また、プログラム種別に○をつけてください。 <small>例：東北大学病院歯科医師臨床研修 単独型プログラム ①単独型 ②管理型(協力型・複合型も含みます)</small>	()	
Q8 現在あなたが受けている臨床研修プログラムは出身大学のプログラムですか。	1. はい	2. いいえ
Q9 臨床研修プログラム内で研修を行う施設を全てお答えください。管理型・協力型・複合型での研修施設、既に研修終了したものについても選択してください。(複数選択可)	1. 歯学部のある大学病院 2. 一般病院・歯学部のない大学病院 3. 歯科診療所 4. 保健所 5. その他()	
Q10 臨床研修を受けて、今後の進路に影響はありましたか。また、その理由を教えてください。(自由記載)	1. はい 2. いいえ	(理由を教えてください)

あなたがマッチングで第一志望とした臨床研修プログラムについてお答えください。

Q11 第一志望とした臨床研修プログラムを選んだ最も大きな理由を次の中から一つお答えください。	1. 技能を身に付けたい	5. 出身地に近い
	2. 給与が良い	6. 環境を変えたい
	3. 出身大学だった	7. 複数施設にて研修できる
	4. 魅力的な大学院課程がある	8. その他()

あなたのキャリア展望(仕事における将来設計)についてお答えください。

Q12 現時点であなたはキャリア展望(仕事における将来設計)を描けていますか。次の中から一つお答えください。

1. 描けている
2. やや描けている
3. あまり描けていない
4. 描けていない

Q13 あなたの思い描くキャリア展望(仕事における将来設計)は何ですか。次の中から一つずつ選び、()内に数字を記入してください。同じ選択肢を複数回使用しても構いません。

例:大学院に進学し、診療所勤務医を経て開業する場合

臨床研修終了直後 (2)

5年後 (5)

10年後以降 (6)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 臨床研修終了直後 () | 1. 後期臨床研修 |
| 5年後 () | 2. 大学院 |
| 10年後以降 () | 3. 海外留学 |
| | 4. 病院勤務医・大学病院の医員 |
| | 5. 歯科診療所勤務医(分院長含む) |
| | 6. 歯科診療所の開業医 |
| | 7. 大学での研究職・教育職 |
| | 8. 行政専門職 |
| | 9. 専業主婦・主夫 |
| | 10. その他() |
| | 11. 特にない・分からない |

Q14 あなたが将来、歯科診療所を開業すると想定してください。開業にあたって不安に感じることを次の中からお答えください。(複数選択可)

1. 開業する意志はない
2. 不安に感じることはない
3. 開業資金の調達が困難だと思う
4. 経営管理が困難だと思う
5. 従業員管理が煩雑だと思う
6. 臨床技術が不足している
7. 人とのコミュニケーションが苦手
8. 出産・育児などによる離職の可能性がある
9. 近隣歯科診療所との競合が激しい
10. その他()

Q15 将来的に歯科診療所を開業する意志はありますか。次の中から一つお答えください。(継承開業する場合も含みます)

1. 開業したい
2. やや開業したい
3. あまり開業したくない
4. 開業したくない

Q15で「1.開業したい」「2.やや開業したい」と回答した方のみお答えください。

Q16 最も大きな理由を次の中から一つお答えください。

1. 両親・親戚が開業しているから
2. 高収入が期待できるから
3. 自分の目指す医療を提供したいから
4. 周囲の人が開業を勧めるから
5. 開業するのが一般的だと思うから
6. その他()
7. 特に理由はない

<p>Q17 大学でキャリア展望(仕事における将来設計)に関する教育を受けましたか。「1.受けた」と回答した方は内容をお書きください。</p>	<p>1. 受けた (内容: _____) 2. 受けなかった・覚えてない</p>
<p>Q17で「1.受けた」を回答した方のみお答えください。</p>	
<p>Q18 その教育によって、あなたのキャリア展望(仕事における将来設計)に影響はありましたか。次の中から一つお答えください。 また、そう回答した理由をお答えください。(自由記載)</p>	<p>1. 影響があった 2. やや影響があった 3. あまり影響がなかった 4. 影響がなかった</p> <p>(どのような理由ですか)</p>
<p>Q19 大学の教育以外でキャリア展望(仕事における将来設計)に影響を与えたものはありますか。次の中からお答えください。(複数選択可)</p>	<p>1. 歯科関係のセミナー・講演 2. 本・雑誌(タイトル: _____) 3. インターネット 4. その他(_____) 5. ない</p>
<p>Q20 あなたのキャリア展望(仕事における将来設計)に最も影響を与えた人物は誰ですか。次の中から一つお答えください。</p>	<p>1. 大学の教員 2. 職場の上司 3. 部活の先輩 4. 部活以外の先輩 5. 友人 6. 両親・親戚 7. その他(_____) 8. いない</p>
<p>Q21 認定医・専門医・指導医の資格を取得する意志はありますか。</p>	<p>1. はい 2. いいえ・特に考えていない</p>
<p>Q22 結婚・出産・育児・介護等によって離職した場合、歯科医として復職しますか。</p>	<p>1. はい 2. 場合による 3. いいえ</p>
<p>Q23 目標年収をお答えください。</p>	<p>年収(_____)万円程度</p>
<p>Q24 将来働きたい場所はどこですか。次の中から一つお答えください。 国内の場合は都道府県名を記入し、(市街地)か(市街地以外)に○をつけてください。田舎・農村などは市街地以外に○をつけてください。 例: 1.都道府県: 宮城県の(市街地・市街地以外)</p>	<p>1. 都道府県: _____ の(市街地・市街地以外) 2. 海外で働きたい 国名: _____ 3. 場所は問わない 4. 考えていない・分からない</p>
<p>Q24の回答理由についてお答えください。</p>	
<p>Q25 将来働きたい場所について、回答した最も大きな理由を次の中から一つお答えください。</p>	<p>1. 実家がある 2. 出身大学がある 3. 現在の研修施設がある 4. 高収入が見込める 5. 自身の能力向上のため 6. 住環境が良い 7. 憧れがある 8. 職場が限られている 9. その他(_____) 10. 特に理由はない</p>

あなたの歯科に関する考えについてお答えください。

<p>Q26 今後あなたが重点をおいて取り組みたい歯科医療の分野を選んでください。(複数選択可)</p>	<table border="0"> <tr> <td>1. 予防歯科</td> <td>9. 摂食・嚥下</td> </tr> <tr> <td>2. インプラント</td> <td>10. 有床義歯</td> </tr> <tr> <td>3. 高齢者歯科</td> <td>11. 歯周病</td> </tr> <tr> <td>4. 審美歯科</td> <td>12. 心身症</td> </tr> <tr> <td>5. 再生医療</td> <td>13. 在宅歯科医</td> </tr> <tr> <td>6. アンチエイジング</td> <td>14. 障害者歯科</td> </tr> <tr> <td>7. 口腔外科</td> <td>15. 小児歯科</td> </tr> <tr> <td>8. 歯科矯正</td> <td>16. その他()</td> </tr> </table>	1. 予防歯科	9. 摂食・嚥下	2. インプラント	10. 有床義歯	3. 高齢者歯科	11. 歯周病	4. 審美歯科	12. 心身症	5. 再生医療	13. 在宅歯科医	6. アンチエイジング	14. 障害者歯科	7. 口腔外科	15. 小児歯科	8. 歯科矯正	16. その他()
1. 予防歯科	9. 摂食・嚥下																
2. インプラント	10. 有床義歯																
3. 高齢者歯科	11. 歯周病																
4. 審美歯科	12. 心身症																
5. 再生医療	13. 在宅歯科医																
6. アンチエイジング	14. 障害者歯科																
7. 口腔外科	15. 小児歯科																
8. 歯科矯正	16. その他()																
<p>Q27 今後需要が増加すると考えられる歯科医療の分野を選んでください。(複数選択可)</p>	<table border="0"> <tr> <td>1. 予防歯科</td> <td>9. 摂食・嚥下</td> </tr> <tr> <td>2. インプラント</td> <td>10. 有床義歯</td> </tr> <tr> <td>3. 高齢者歯科</td> <td>11. 歯周病</td> </tr> <tr> <td>4. 審美歯科</td> <td>12. 心身症</td> </tr> <tr> <td>5. 再生医療</td> <td>13. 在宅歯科医</td> </tr> <tr> <td>6. アンチエイジング</td> <td>14. 障害者歯科</td> </tr> <tr> <td>7. 口腔外科</td> <td>15. 小児歯科</td> </tr> <tr> <td>8. 歯科矯正</td> <td>16. その他()</td> </tr> </table>	1. 予防歯科	9. 摂食・嚥下	2. インプラント	10. 有床義歯	3. 高齢者歯科	11. 歯周病	4. 審美歯科	12. 心身症	5. 再生医療	13. 在宅歯科医	6. アンチエイジング	14. 障害者歯科	7. 口腔外科	15. 小児歯科	8. 歯科矯正	16. その他()
1. 予防歯科	9. 摂食・嚥下																
2. インプラント	10. 有床義歯																
3. 高齢者歯科	11. 歯周病																
4. 審美歯科	12. 心身症																
5. 再生医療	13. 在宅歯科医																
6. アンチエイジング	14. 障害者歯科																
7. 口腔外科	15. 小児歯科																
8. 歯科矯正	16. その他()																
<p>Q28 現在、歯科医師数は過剰だと思いますか。また回答理由もお答えください。(自由記載)</p>	<table border="0"> <tr> <td>1. はい</td> </tr> <tr> <td>2. どちらでもない・分からない</td> </tr> <tr> <td>3. いいえ</td> </tr> <tr> <td>(回答理由)</td> </tr> </table>	1. はい	2. どちらでもない・分からない	3. いいえ	(回答理由)												
1. はい																	
2. どちらでもない・分からない																	
3. いいえ																	
(回答理由)																	

あなたの歯科知識・経験についてお答えください。

<p>Q29 歯科訪問診療の際、摂食嚥下機能の判定で、最も簡単に行える方法はどれだと思いますか。次の中から一つお答えください。</p>	<table border="0"> <tr> <td>1. 反復唾液嚥下テスト</td> </tr> <tr> <td>2. 嚥下内視鏡検査</td> </tr> <tr> <td>3. 嚥下造影検査</td> </tr> <tr> <td>4. 簡易嚥下誘発試験</td> </tr> <tr> <td>5. 分からない</td> </tr> </table>	1. 反復唾液嚥下テスト	2. 嚥下内視鏡検査	3. 嚥下造影検査	4. 簡易嚥下誘発試験	5. 分からない	
1. 反復唾液嚥下テスト							
2. 嚥下内視鏡検査							
3. 嚥下造影検査							
4. 簡易嚥下誘発試験							
5. 分からない							
<p>Q30 在宅療養型支援歯科診療所に対する知識について、次の中から一つお答えください。</p>	<table border="0"> <tr> <td>1. 名称や制度について知っており、実際の診療所も知っている</td> </tr> <tr> <td>2. 名称や制度は知っているが、実際の診療所は知らない</td> </tr> <tr> <td>3. 名称は聞いたことがあるが、どのような診療所かは知らない</td> </tr> <tr> <td>4. 名称も制度もよく知らない</td> </tr> </table>	1. 名称や制度について知っており、実際の診療所も知っている	2. 名称や制度は知っているが、実際の診療所は知らない	3. 名称は聞いたことがあるが、どのような診療所かは知らない	4. 名称も制度もよく知らない		
1. 名称や制度について知っており、実際の診療所も知っている							
2. 名称や制度は知っているが、実際の診療所は知らない							
3. 名称は聞いたことがあるが、どのような診療所かは知らない							
4. 名称も制度もよく知らない							
<p>Q31 これまでに歯科訪問診療(介護施設や在宅などへの訪問診療)についてどのような教育を受けましたか。(複数選択可)</p>	<table border="0"> <tr> <td>1. 学部教育の講義(座学)にて受講した</td> </tr> <tr> <td>2. 学部教育の臨床実習にて訪問した</td> </tr> <tr> <td>3. 臨床研修の講義(座学)にて受講した</td> </tr> <tr> <td>4. 臨床研修にて訪問した</td> </tr> <tr> <td>5. その他()</td> </tr> <tr> <td>6. 受けたことがない・覚えてない</td> </tr> </table>	1. 学部教育の講義(座学)にて受講した	2. 学部教育の臨床実習にて訪問した	3. 臨床研修の講義(座学)にて受講した	4. 臨床研修にて訪問した	5. その他()	6. 受けたことがない・覚えてない
1. 学部教育の講義(座学)にて受講した							
2. 学部教育の臨床実習にて訪問した							
3. 臨床研修の講義(座学)にて受講した							
4. 臨床研修にて訪問した							
5. その他()							
6. 受けたことがない・覚えてない							